



「いつまでも自宅でも安心して過ごせる お手伝いをしたい」

元今治市地域おこし協力隊／しまなみ介護タクシー GRABAKA今治大島代表

兵頭 未来洋



サイクリングがきっかけで今治の大島へ

サイクリストの聖地と呼ばれるしまなみ海道へ初めて来たのは7、8年ほど前で、目的はもちろんサイクリングでした。多島美と瀬戸内の雰囲気が入り、その後は毎年訪れるようになり、もともと父が宇和島市出身ということもあり、愛媛県には子供の頃からよく来ていたので、瀬戸内海は私の原風景のひとつだったのかもしれない。いつかは田舎暮らしをしたいと思っていた私は、たまたまインターネットで「地域おこし協力隊」という制度を知り、興味を持って調べたところ、ちょうど大好きなしまなみ海道の今治市が協力隊の募集をしていました。思い切って応募して、協力隊の事をネットで知ってから半年後には東京から今治市の島に引越しをしました。人生何があるかわかりません。

地域おこし協力隊（フリーミッション）の活動

私は今治市の大島にある古海町に2020年4月から3年間地域おこし協力隊としてフリーミッションで活動しました。フリーということは、自分で活動内容を考えないといけないので、赴任当初は市役所の席に座り「さあ何をやろう」と戸惑ったものです。まずは「よそ者」である私としては、一日でも早く島になじめるようにといろいろな活動をしました。

- ポパイズクラブ（耕作放棄地を開墾し、オリーブを栽培・加工している）への協力
- 小学生の収穫体験等に使われる野菜の農作業の手伝い
- 大島の紹介サイトの作成
- ラジオレポート
- 市役所の職員さんと空き家調査
- 格闘技教室（東京で格闘技を習った）の開催など

なお、格闘技教室は「GRABAKA今治大島」という名称で、今も週に3回開催しています。

「介護タクシーやってよ」

今治市に来る前はデイサービスの施設長をしてきたこともあり、協力隊の任期後は介護系の仕事をしようと思った。そんな折、島の方から「島には移動に



GRABAKA今治大島



介護タクシー



困っている高齢者が多いから、島で介護タクシーをやつてよ」と声をかけていただいたことがきっかけで、いろいろと調べ始めました。大島の高齢者率は約50%で、バス路線がひとつ廃止になったりして、確かに困っている方は多そうでした。そもそもバスの停留所にも行くことが困難な方もいます。また、大きな病院へ行くには来島海峡大橋を渡らなければなりません。もちろん私はタクシー運転手の経験がまったくありません。しかし調べてみると開業にはいろいろな条件をクリアする必要がありますが、何とか私にもできるかもしれない。思い切って開業してみよう!」と決意し、開業に向けて準備を開始しました。

二種免許と介護福祉士

まず取り掛かったのは資格の取得です。必須の資格は「普通二種免許」です。これは教習所へ通い、試験も受けて



車いすから降りずに乗車できます

無事に一発で合格できました。もうひとつは、必須ではないのですが、国家資格である「介護福祉士」を取得しようと考えました。タクシーへの乗り降りだけでなく、一人でベッドから起き上がるのが困難な方を介助する場合もあります。そのため「介護のプロ」とも言えるし、かりとした資格が必要だと考えました。協力隊の活動と並行しながら勉強して一発合格し、介護福祉士となることができました。退任後はすぐに開業しないといけないため、絶対に合格をというプレッシャーが凄かったです。

困っている人のお手伝いをしたい

介護タクシーがメインの仕事内容なのですが、他に「困りごとお手伝いサービス」という事業も行っていきます。介護保険のヘルパーさんが原則やってはいけない窓拭きや草引きなどの介護保険外のサービスです(もちろんヘルパー



協力隊の活動・農作業の手伝い

さんができる内容も対応できます)。例えば、タクシーに乗車していただいた際に「二階のストロープを一階に下ろしたいけど重くて…」などちょっとした困り事があれば、自宅までお送りした際に「私がストロープを下ろしたりできたら良いなあ」と思い、こちらも許可を取りました。いつまでも生まれ育った島で安心して過ごせるお手伝いができるのが嬉しいです。

これからもお役に立てるように

2020年問題もあり、団塊の世代の方々が後期高齢者となり、今後更に高齢者は増えていきます。歩行が困難で買い物にもなかなか行けなくなると栄養が偏り、低栄養となり免疫力や体力が低下します。そうなると社会参加・気力が減り、認知症や寝たきりになる可能性が高くなるなど、たくさんさんの問題が連鎖的に起こります。実際デイサービスで働いていた際にそういった方を何人も見てきました。私にできることはほんの少しですが、「好きな時に出かけられる」一助となればと思っています。開業してまだ一年も経っていませんが、お客さまから「本当に助かっている」「いつもありがとう」と嬉しい言葉をいただける事も多く、とてもやり甲斐を感じています。これからも島の皆さんのお役に立てるように頑張ります。